



生浜地域誌

第60号
2021.12.18
発行
NPO 法人
ちば・生浜歴
史調査会
電話
080-5387-
2592

行事のご案内 ☆*~♪

コロナ感染防止対策をして下記行事を実施します。

★マスクと手指消毒、体温計測と連絡先確認。★密を避けるスペースを取り、非接触で行います。

★会場について・・・旧役場の2階は耐震検査の結果「耐震強度に難あり」とのこと
で、行事での使用ができません。(見学は1度に5名まで可) 従って現在、生浜地
区内での会場を探しています。参加者には個別にお知らせ致します。



NPO法人ちば・生浜歴史調査会 主催 「文化講座」のご案内

開催の目的 : 文化的な講座を定期的開催していく。見聞を広げ、地域への関心
を深め、誇りと愛をもち次世代に受け継ぐまちづくり活動に貢献して
いく。

「布ぞうりづくり」・体験・令和4年1月15日(土) 9:30~11:30 (鼻緒代 100円)

- ◆古布をリサイクルします。材料は、あり合わせの布切れです。残りの布切れで
草履(ぞうり)を編む。フローリングのお部屋用に最適。エコで省エネ。

歴史講座2「石斧の話・生(なま)の古代」

令和4年2月12日(土) 9:30~11:30 (参加費無料)

- ◆千葉市埋蔵文化財調査センターの小林崇先生をお招きします。
専門的なご研究に基づく歴史の話題を解り易くお話していただきます。リアル
な古代を 知ることが出来そうです。

歴史散歩・・・千葉市埋蔵文化財調査センター見学・・・

令和4年 2月 5日(土) 9:00~12:00(参加費無料)

- ◆ギャラリートークの見学 千葉市制100周年記念「千葉市内出土考古資料優品展」
- ◆直接会場に集合。又は旧生浜町役場庁舎に集合して車の相乗りで会場に向かう事も出来ます。

行事参加申し込み方法 NPO 法人ちば・生浜歴史調査会 までお願いします。
 ・先着 20 名で締切ます.....但し申し込みが 3 名未満の時は中止とします。
 ・電話連絡火、木、土曜日(9:30~16:00) 043-265-8816 携帯:080-5387-2592
 伝言・ショートメール可 oi2ha2ma@softbank.ne.jp でも可。

60年余り前のお話です

特集 令和3年に昭和33年を回想する<1958年—2021年=63年前>

「輝かしき栄光の記憶

生浜中学校野球部千葉県大会初優勝！」

千葉市立生浜中学校の「学事概要」昭和33年度版には野
球部の千葉県大会優勝の事が詳細に記録されていました。当
時を知る者の記憶をここに集めて、立体的に回想してみたい
と思います。尚、生浜中学校、現・校長の太刀川 裕先生
のご協力をいただき当時の資料をお借りすることが出来ました
ことお礼申し上げます。



1. 昭和30年代の生浜中学校の現状を「学事概要」から見る。

=転載= 学事概要 < 学力の充実 >

千葉市の外郭で、のんびりとした農村気分につつまれた本校生徒は、学習意欲にも欠け、学力の低いことは申すまでもない。そこで総ての方策を、「学力・意欲の昂揚」においてみた。

- ①教師の指導力の増強を考える。・・・市の教研集会やあるいは現場研究員(深山昭先生)を出し、或いは公開研究会参加等の奨励。指導力増強をはかる。・・・
- ②月例テスト実施・・・生徒の学習意欲を高める策・・・
- ③全国学力調査等の参加により生徒の自覚を促す策。
- ④夏季特設補習授業の実施。
- ⑤3年生には補習授業を実施。父兄会を開いては意欲の昂揚の必要性を叫び、別の面では
- ⑥プライド昂揚策を考える。・・・引いては学習意欲の高まりを持っていくべく策。・・・

学事報告そのままを記す

以上随分努力をした。徐々ではあるが結果は良い方向にたどりつつある、嬉しいことだ。

<プライドを持たせる の方策が稔る。>

何クラブであってもかまわないのだ。兎に角優勝させてみたい。それも素晴らしい成績でだ。そのことはきっと生徒たちに「自分たちにはこんな素晴らしい力があったのか」と驚かれると同時に或る酔(よい)と夢と奮起心を大きく揺さぶることだろう。・・・

昨年度から素晴らしい進歩ぶりを見せた野球部に、この夢がもたれそうだ。そこで該当部に対しては小生自身も大いに側面的協力をしたものだった。練習試合があれば何処へでもついて行って激励もした市原教諭の指導力、熱意も大したものだった。

これは学校を運営する観点から子供たちを育てるという職員の立場からの記録であります。よりよい教育を施そうという教育現場の姿勢がうかがえる公文書です。先生方の熱意や町民の思いが伝わってくる記録でもある。証言と言ってもよいでしょう。

以下、「素晴らしい進歩ぶりを見せた野球部」について学事概要から転載してみましょう。

=転載= 試合結果・・・優勝までの5回の戦いぶり・・・

6月28日千葉市野球大会が開幕し、生浜中学校野球は連勝、連勝毎回素晴らしい成績だった。そして7月6日遂に市内大会優勝(9対1の大戦勝)。生浜中としては、はじめての千葉市代表となって千葉県大会に出場することになった。

8月5日千葉県大会開幕。第1回戦不戦勝。第2回戦、優勝候補の強豪「飯岡中学校」と対戦、延長11回、5対4で勝利。第3回戦、「千倉中学校」と対戦、12対1、一方的な試合で勝利。第4回戦、・・・準決勝戦・・・県下一と目される「銚子一中学校」と対戦、8対1勝利。(前年度優勝・今年度の優勝候補である「五井中学校」を破ってきた「銚子一中」に快勝した。)第5回戦・・・決勝戦・・・「市川一中学校」と対戦、延長11回、1対0で優勝。

(当日生浜中野球部は準決勝戦終了直後の決勝戦という組み合わせとなった。昼食を摂る間もなく試合に臨むこととなった。そして勝利。)

2. 当時の野球部員として出場した者の思い出 証言!

加藤正喜氏は語る・・・

(NPO 法人ちば・生浜歴史調査会会員)

「無名校の野球部に光が」

昭和33年、野球の無名校に関西の大学で活躍した故・市原弘道教諭が監督についた。

(後の習志野高校甲子園全国制覇監督)

その練習内容と訓えを思い出す

監督は、野球の原点とでもいうべき「走・攻・守」の基本技術を事細かに自らも実践しながらの指導で、存在感を強く感じた。

●正確な送球をするにはどうするか? ●守備時の姿勢、第一歩のスタート要領、グラブさばき等。●打者については走者等の状況に応じた打ち方。●走者は、ベースランニング、各場面でのスタート、滑り込み方法。●練習試合も千葉市内外の強豪中学と頻繁に行われた。●同校OBの高橋氏(前巨人軍監督 高橋由伸氏の父親・重衛氏)による指導、これが監督以上に厳しく、恐怖さえも感じた。●全試合前に、監督持参の米粒少々を全選手に食べさせ試合に臨んだが、御呪(おまじな)い、縁起かつぎか??? ●部員への私生活の注意として、水泳やアイスキャンデー等、体(肩)が冷えるものは禁止。英語試験の不成績者にはペナルティーも課せられた。

主なメンバーを思い出す

ピッチャー高橋3年・投手・・・エースでもあり4番打者の高橋(利)は、抜群の制球力やスピード等、中学生としては群を抜いていた。(後に夏の甲子園大会予選で完全試合達成した)・・・

キャッチャー 田巻3年・捕手・・・守備、打力共に優れており、高校では高橋投手の女房役として活躍した。・・・

ファースト地挽3年内野手・・・走・攻・守の三拍子そろった主力選手として活躍した。・・・

ショート白井2年・内野手(故・白井芳郎、NPO 法人ちば・生浜歴史調査会会員)

レフト加藤2年・内野手・・・本人・・・

センター時田3年・外野手 センター大島3年

ライト高梨3年 セカンド小倉3年 サード布川3年

監督・市原先生の指導ぶり

小菅昌光氏は語る・・・

(NPO 法人ちば・生浜歴史調査会会員)

「僕らは野球をするのが楽しくなった」

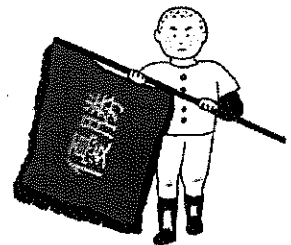
市原監督は「チーム全員で勝つ野球をしよう」と言った。そして練習方法が変わった。

“きつかった”

“うるさかった”

そして野球の基礎知識を教え込まれていったのだった。まず、練習前の前と後のキャッチボールは正確送球を身につけるため、特にうるさかったことを思い出す。

100本ノックもあった。守備時の姿勢やグラブさばき、またベースランニングやスタートの走り方、そして野手間の連携など、今思うと理(論)を尽くしての指導であったことに気付く。練習試合も数多く組まれて、そのうち試合をするのが楽しくなってきた。・・・62年も前の野球少年・・・生中・野球部部員・・・



3. 「市原弘道先生のこと」 証言!

白井 孝氏(NPO 法人ちば・生浜歴史調査会会員)は語る・・・

奈良の大学を卒業されて千葉の田舎中学の英語の教師となられた市原弘道先生はまた、野球の名監督であった。無名の中学校野球部を千葉県大会初優勝に導き、その才を評価されて習志野市立習志野高校へ転勤。(生浜中から花園中そして習志野高校) 高校野球の甲子園でも全国優勝という頂点にも立たれた先生であった。

生浜中学校の県大会初優勝の時、私は7才。父(故・白井三郎)の元同僚であった先生は生浜中学校を離れても時折父を訪ねて来てくれていた。生浜中学校時代の先生は独身で我が家の裏に下宿していた。練習試合の勝敗に父とビールを賭けていて、いつも父の負けのようだったが夕方2人して縁側でステテコ姿で酒を酌み交わしている風景は心に残っている。

私は高校の教師に就き、勤務先の学校では何人かの野球部監督に巡り合う。

-3-

「高校は習志野高校で野球を…甲子園でもプレーしました…」

『じゃあ、市原先生はご存知？』

「ああ、石井監督の恩師と聞いていますが・・・」

習志野高校は甲子園優勝を2回経験しているだろうが、最初の優勝を果たした市原弘道先生はもう遠い存在になっていると知る。この市原先生が生浜中学校で偉業を成し、そして習志野高校へ転勤して甲子園優勝の口火を切った人物であることを、私は声を大にして、若い監督たちに話して聞かせて来た。あたかも自分の自慢のように・・・。兎に角、すごい人。昭和30年代の生浜地区では語り残さねばならない一人ではないかと思う。

全国高校野球選手権大会で
優勝した習志野高監督の

いち ほん ひろ みち
市 原 弘 道

このコラムと写真提供は、寿松木敏男氏(匝瑳市在住)です。生浜中での市原先生の英語の授業を感銘深く、熱く語ってくれる方です。コラムの日付けは残念ながらコピーのため不明ですが優勝直後の内容です。・・・

・・・読売新聞のコラム記事より転載・・・

「相手も優勝旗は欲しいのだから、ただ悔いのない試合だけは心がけていました」それが大差の優勝！ よほどうれしかったのか「私にも感激を味わわせてください」と、むらがる報道陣をかきわけてセンターポールに上る校旗に直立不動。ずんぐりしたからだ、太いマユ、への字に結んだ口。どこか古武士のにおいをただよわす。

「野球、特に高校野球は守りが基本」というのが“市原哲学”。三年前監督に就任してから、この方針を選手にたたきこんだ。県予選六月末から七月中ごろにかけては、連日1人に三百本ずつノックをした。毎晩十時過ぎに帰宅。「本を読んでいても練習の方法に対して疑問が次々にわいてきて、眠れなかった」。しかし、方針通り、守備練習を三週間続けた。こうして“点を取る前にまず、取られない野球”を完成させた。

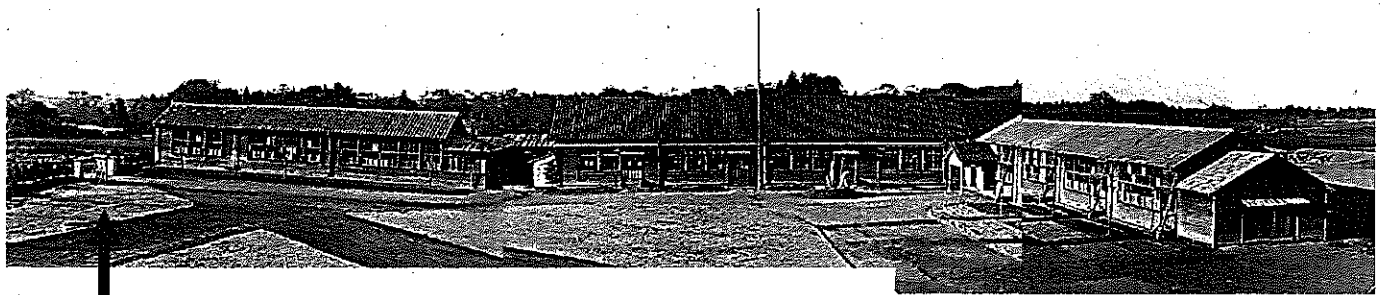
父親が天理教の布教師だったので、六歳の時に奈良県天理市に移住、天理中では投手、天理高に進学してからは二塁手、その時の監督、家村相太郎さん(四九)は、「向こうっ気の強い、粘りのあるヤツだった」と評している。天理高は奈良県大会で優勝したが、紀和大会で海南高に敗れた。甲子園出場はこの時からの宿願である。

「これからはゆっくり読書にふける生活もしてみたい」という。「でも無理ですね。つぎには国体がありますから・・・」。薄くなりかけた頭をなでながら、自分にいきかせた。千葉県生まれ。ややふけて見えるが、まだ三十五歳。洋子夫人(三十三)との間に六歳と三歳の二女がある。



以上のこの60年余りむかしのお話を懐かしく思い出す方と、初めて耳にする方の割合は、この生浜地区ではどのくらいになるのでしょうか・・・

この件に関する資料をお持ちの方は本会までご連絡ください。また当時の試合の実況の記録や選手の集合写真は本会でも保存してございます。興味関心のある方はお問い合わせください。紙面の都合でここまでといたします。(昭和33年ころの生浜中、七廻り塚・忠霊塔あたりから望む)



現在の生浜東小学校の裏門